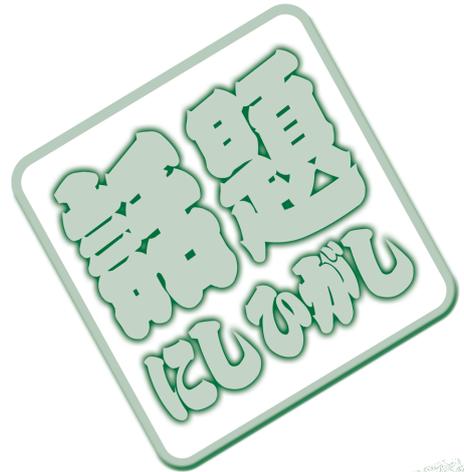


「食」で育むまちづくり

町民文化祭二日目にあたる11月16日(土)、国際交流会館ホールにおいて、第32回鶴田町町民文化祭講演会が開催され、福井県小浜市前市長の村上利夫さんが「食のまちづくり」をテーマに講演を行いました。

会場には当講演会の仲立ちを行った弘前大学大学院地域社会研究科長の檜 貢教授も来訪。檜教授は「今日この場に鶴田町と小浜市の2人の食育のリーダーが集うところを皆さんに見てほしい」とあいさつを述べました。

講演で村上さんは「『食』でまちづくりをすることに間違いはないと思い取り組んできた」と食育によるまちづくりに努めた自身の経験を披露。また、「育てるという気持ちは『育む』という経験で育っていく。具体的な目標に取り組む鶴田町の朝ごはん条例は素晴らしい」と話していました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(22-2111 内線264)



△「人づくりと教育を大事にしてきた」と話す村上さん

オリンピック出場を夢見て

11月2日(土)、鶴田町武徳館で、第2回鶴田町長杯争奪少年柔道大会(鶴田町柔道協会主催)が行われました。「7年後のオリンピックに出場する選手を育成する」ことを目的に開かれた大会には、当町の鶴田町柔道少年団のほか、誠有館有榔道場(北海道)、雄武館山中道場(秋田県)、太陽塾(宮城県)の選手が参加。開会式では、鶴田町柔道少年団の笹森翔夢くんが「礼儀は僕らの得意技 柔道で世界のみんなと友達に」と柔道ルネッサンスを宣誓しました。

試合は団体リーグ戦方式で行われ、選手たちは監督から「立て!腰を引くな!」などの厳しい指導を受けながらも、チームの選手や父兄の応援を後押しに対戦相手との攻防を繰り広げ、日頃の練習の成果を競い合っていました。



△鶴田町柔道少年団の蝦名選手が「体落とし」をかける瞬間

子どもたちが文化の日を楽しむ

11月3日(日)、鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」で「科学と遊びをみんなで体験しよう!」をテーマに、第20回鶴田町子どもの祭典(町子ども会育成連絡協議会(中村琢司会長)主催)が開催され、町内の子どもたち約200人が参加しました。

イベントでは、神田昌彦先生が子どもたちに科学を楽しく教える「サイエンスショー&ふしぎクラフト」や岡本淳一先生によるマジックショーが行われました。参加した棟方一楽くん(鶴田小3年)は「祭典に参加するのは今年で3回目。ハンカチを使ったマジックショーがすごかった」と話していました。

そのほか、町内の子ども会やジュニアリーダーらが、たこ焼きやつきたてのお餅を販売する模擬店や、午後からはゲーム大会やビンゴ大会も行われ、参加した子どもたちは楽しい1日を過ごしていました。



△神田昌彦先生のサイエンスショーに子どもたちの目はくぎ付け

両町のより良いまちづくりのために

11月13日(水)、さつま町区公民館長連絡協議会(上園一行会長)23人(公民館長20人、職員3人)が視察研修のために来町し、当町の行政推進員連合会の役員と意見交換会を行いました。

国際交流会館ホールで行われた意見交換会では、鶴田町行政推進員連合会の佐藤常義会長が「お互いに良い町をつくれるように楽しんで話し合いをしましょう」とあいさつを述べると、さつま町区公民館長連絡協議会の上園会長は「このような機会を作ってもらったことに感謝しています。今回の研修をさつま町にとって実りあるものにしたい」と話しました。意見交換では、「鶴田町のリンゴ農家の数やリンゴの生産額はいくらか」などの質問が出され、両町のまちづくりについて活発な意見が交わされました。



△さつま町区公民館長連絡協議会の上園会長によるあいさつ

みどりの会がリンゴを提供する

11月15日(金)、町の若手農業後継者団体「鶴田町みどりの会」(佐藤貴郁会長)の皆さんが収穫したばかりの無袋のサンふじ32箱(計640kg相当)を町の学校給食用に無償で提供しました。

みどりの会では毎年、会員の皆さんが育てたリンゴを町に提供しています。JA水元リンゴセンターで行われた寄贈式には、中野雄臣教育長も出席。中野教育長は「子どもたちがこの時期に学校給食でリンゴを食べられるのは本当に幸せだと思う。会の皆さんが手塩にかけたリンゴを頂くことができ、大変ありがたい」とお礼を述べると、みどりの会の長峰良孝副会長は「子どもたちに私たちが作ったリンゴを食べてもらって、子どもの頃からリンゴを食べて育った町民になってほしい」と話していました。



△今回町にリンゴを提供したみどりの会の皆さん